

防衛費7兆円要求へ

24年度予算、過去最大

防衛省は8月末にまとめた2024年度予算概要で、過去最大の7兆円台を求める。NEWSの書類で計上する方向で調整に入った。他国領域のミサイル基地などを破壊する反

撃能力（敵基地攻撃能力）に活用する国産の長射程ミサイルの取得費や、計画を撤回した地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の代替案として整備する「イージス・システム搭載艦」の建造費などを盛り込む。関係者が8日、明らかにした。

政府は23～27年度に防衛力を抜本的に強化する方針で、昨年12月に策定した安全保障関連3文書に5年間の防衛費総額を約43兆円と明記した。23年度当初予算是6兆8219億円。7兆円台への増額要求はこの方針に沿った形だが、具体的な使途と必要性について十分な説明が求められる。関係者によると、概算要求では長射程ミサイルの取

得を促進。陸上自衛隊の12式地対艦誘導弾の射程を千キロ程度に延ばす「能力向上型」の量産費を計上する。南西諸島など島しょ防衛用の新型ミサイル「高速滑空弾」の早期装備型の量産費も盛り込む。

艦は28年度までに24隻を配備する予定。陸海空3自衛隊を一元的に指揮する常設の「統合司令部」を防衛省がある東京・市谷に新設するため必要な人員も要求する。

防衛力強化は、長射程ミサイルの取得やイージス・システム搭載艦の整備をはじめとする防空能力向上の他、無人機の活用拡大や宙・サイバーといった新領域対処など計7分野が柱。